岩槻の未来について市長が答弁！

副都心（岩槻駅周辺）のまちづくりについて

Q.　大宮駅グランドセントラルステーション化構想の推進や春日部駅の鉄道高架化が実施されており、東武アーバンパークライン沿線のまちづくりが活性化している。このような状況を踏まえると、中間に位置する岩槻駅について、地下鉄７号線の延伸も含めポテンシャルが高まっていると考えている。そのポテンシャルが生かされるよう、岩槻駅周辺の用途地域を見直すことが必要と考えるが見解を伺う。

A.　さいたま市は、国の首都圏広域地方計画において、東日本の対流拠点として位置付けられており、また、首都圏の広域的な環状道路核都市広域幹線道路が計画されているなど、広域的なネットワークにおける重要な拠点としての役割が期待されている。本市の都心である大宮駅周辺地区では、東日本の玄関口である大宮、ひいては市のプレゼンスを飛躍的に向上させるために、大宮駅グランドセントラルステーション化構想を推進している。

また、都心を補完する副都心の一つである岩槻駅周辺地区においても、春日部の鉄道高架化及び駅周辺のまちづくりが進められているなど、東武アーバンパークライン沿線におけるまちづくりの動きが活発化している。

さらに、東京圏の鉄道ネットワークの強化や、埼玉県東部地域の発展に向け、地下鉄７号線の延伸やそれに伴う中間駅のまちづくりの推進など、今後も岩槻駅を取り巻く環境は大きく変化していくものと考える。

こうした背景を踏まえ、美園地区と岩槻駅周辺地区を結ぶ地域の成長・発展に向けた方策をまとめた「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」を策定し、住みやすさの向上や、地域価値の向上に向けた各種取り組みを推進している。

また、岩槻駅周辺については、歴史と文化が薫り、にぎわいのある副都心地区の形成を目指し、「岩槻まちづくりマスタープラン及びそのアクションプラン」を策定して、街並みづくりや地域資源の魅力向上、またウォーカブルなまちづくりに取り組んでいる。

さらに、地域経済の活性化や生活利便性の維持・向上を図っていくため、現在検討を進めている立地適正化計画において、岩槻駅周辺地区を含めた都心、副都心等について、商業または業務などを誘導していく「都市機能誘導区域」として設定することを検討している。

今後は、岩槻駅周辺の地域特性、将来的なポテンシャルを見据えた都市機能の誘導を図って行きたい。また、併せて、地下鉄７号線延伸による鉄道の結節点としての都市基盤のあり方などを踏まえ、当該地域の用途地域見直しの必要性について検討を進め、本市の副都心としての拠点機能向上が図られるよう着実に岩槻駅周辺のまちづくりを推進していきたい。

区民の願う交通インフラの整備前進を！

都市計画道路等について

さいたま市地図情報
（都市計画道路）

Q.　慈恩寺古ケ場線について

A.　主要地方道さいたま幸手線の慈恩寺入口交差点から都市計画道路　上野長宮線に至る、延長 800m、計画幅員 18mの都市計画道路で、このうち約 400mが土地区画整理事業により整備が完了しており、残りの区間が未整備となっている。「さいたま市道路網計画」において、将来必要な道路網として位置づけられていることから、都市計画道路として整備していく路線であると考える。

Q.　東川口駅越谷線について

A.　川口市内の約 660mの区間で整備が完了しており、岩槻区内及び越谷市内の区間が未整備となっている。川口市及び越谷市と３市をまたぐ都市計画道路であることから、令和４年度より、沿線３市による協議を実施しており、各市の周辺における整備状況などを共有している。当路線の整備に向けて、課題の整理や整備手法等を含め、引き続き、沿線自治体と協議を行っていく。

Q.　蓮田スマートインターまでのアクセス道路について

A.　地域の方々から現道を生かした道路整備の要望書を平成 26 年にいただいている。市としては、東北自動車道までのアクセス道路として、現在事業中である国道 122 号蓮田岩槻バイパスが、重要な役割を担うものと考える。これについては、令和６年９月に、東北自動車道西側の未供用区間を蓮田方面へ２車線による共用を目指し、令和７年３月には全線４車線での開通を目標に事業を進めて行く。

今後については、当該路線の開通後における交通状況や蓮田スマートインターチェンジ下り線の完成後の利用状況などを確認した上で、アクセス道路の整備の必要性について検討していきたい。

SNS でさいたま市の今をチェック！　※さいたま市トップページ下部にリンクがあります

さいたま市ホームページ http://www.city.saitama.jp